くした。屋根土は保水性の高い黒ボク土が主体で、水を含んだ荷重が垂木等にかかり、材の腐朽が進行すると折損する。このため、すべての竪穴住居で土屋根の厚さを 15cm 均一とすることを基本とした。これにより、小屋組材にかかる屋根荷重は激的に軽減されることになり、たわみや折損が生じる危険性を大幅に少なくすることができた。

②高床倉庫修理工事の留意点

維持管理（補修）が可能な茅葺法にして、約７年ごとに全面葺替を要する構造を改めることを最優先とした。具体的には逆葺を順葺に改め、段葺とした。茅が抜け落ちにくいように葺く（縫う）ことを重視した。屋根倉形式は維持しつつも、段葺とすることで仕上りは従来と大きく異なるが、長寿命化の実現の前提となる茅葺法を選定した。また、茅のすぐり作業を行うことで素材自体の耐久性を高めることも重視した。資材費や労務費が従来よりも多く必要となるが、長期的にみた場合の維持管理経費の節減を重視した。

③事業費（第７表）

本再整備事業に要した経費は、全体で 45,428 千円である。補助対象経費 45,402 千円に対して国庫補助金２分の１の交付を受けた。この他、県費補助金４分の１の交付も受けた。

第７表　復原建物等再整備事業費内訳　（単位：千円）

	全　体	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
復原建物・サインの修理	30,497	2,384	5,103	4,799	3,734	6,507	3,607	4,363
金網柵・木柵の修理	3,904				1,355		1,188	1,361
復原建物等修理設計監理	4,831	725	893	599		929	778	907
試験等								
木材暴露試験体製作	167	167						
復原建物木材劣化診断	76	26	24	26				
土屋根試験体製作等	1,071				1,071			
専門家会議・旅費	2,245	290	412	386	261	304	291	301
その他経費	909	92	168	188	111	129	36	185
報告書印刷	1,728							1,728
合　　計	**45,428**	**3,684**	**6,600**	**5,998**	**6,532**	**7,869**	**5,900**	**8,845**
歳入内訳								
補助対象経費	45,402	3,660	6,600	5,998	6,532	7,868	5,900	8,844
国庫補助金	22,701	1,830	3,300	2,999	3,266	3,934	2,950	4,422
県費補助金	11,350	915	1,650	1,499	1,633	1,967	1,475	2,211
補助金計	34,051	2,745	4,950	4,498	4,899	5,901	4,425	6,633
一般財源	11,377	939	1,650	1,500	1,633	1,968	1,475	2,212

事業完了前の平成 29 年３月 10 日に発行した報告書では、平成 28 年度事業費内訳を見込額として掲載した。３月 14 日に開催した専門家会議を経て、３月 28 日に提出した平成 28 年度事業の実績報告書に対して、国庫補助金の確定額が４月３日に通知された。

PDF データの公開にあたり、③事業費（第７表）は確定額に修正している。